

トキソプラズマ抗体検査について

トキソプラズマは寄生虫の一種で、ヒトが感染する経路はネコの糞便や感染したニワトリ、ウシ、ブタの生肉を食べることでおこります。母体が初感染すると肝脾腫、脳内石灰化、水頭症、貧血、精神発育遅滞、網膜脈絡膜炎などの症状からなる先天性トキソプラズマ症を発症することがあります。妊婦の抗体保有率は20%以下で、抗体を持っていない妊婦が感染した場合、胎盤を介して約40%に胎児感染が起こり、その40%がトキソプラズマ症を発症するといわれていますが、実際の感染例は日本では極めて稀です。

妊娠中のトキソプラズマ抗体検査はトキソプラズマに今までに感染したことがあるかをみたり、急性期の（妊娠初期の）感染の診断をしたりすることで、胎児感染の予防を行うことを目的に行われます。